

第 1 回検討会の意見・課題に対する対応状況

意見	対応（案）
1. 内陸地震、大規模な水害についても考慮していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ巨大地震のリスクを主な対象として広域防災拠点の配置を検討している。 ・配置された防災拠点が他のリスクに対しての効果について確認を行う。（次回以降の検討会で報告予定）
2. （防災拠点間で移動する）矢印の中にはヒトも入っていると思う。ヒト、モノ、情報はどこまでのものが含まれているのか。県で考えているものと、今回の資料では差がある。広域の範囲や、拠点の定義を共通認識する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・次のように考えている。 【ヒト】消防、警察、自衛隊、DMAT、TEC-FORCE、ライフライン事業者、ボランティアなど救援、救護活動をする人 【モノ】救援、救護物資（水、食料、医薬品、生活必需品）、燃料、（上記）ヒトの活動に必要な物資 【情報】被災自治体の状況を収集、指揮命令システムを担保する情報インフラ 【広域の範囲、広域防災拠点の定義】（資料－ 2）
3. 検討対象とする物資の範囲として、産業用の物資まで含まれるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する物資（救援、救護物資や応急復旧に係る資機材等）をイメージしている。
4. 東日本大震災では、広域防災拠点的なものは、程度はあるが東北にもあった。実例に基づいて議論したらよい。遠野市で機能したという話がある。こういうことがあったからこうするといった根拠のある計画としてほしい。（あまり、この事例に引っ張られすぎるのも問題だとは思ふ）。 空港、港湾の機能はどうだったのか。遠野は以前から意識していたので、うまくいったのではないか。これがなかった地域との差などを整理できるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・空港や港湾は、被災し事前の備えについて教訓を残したが、復旧後は大きな力となった。（資料－ 3） ・遠野市では、沿岸市町村と広域防災拠点に関わる構想を立て、大規模訓練を実施するなど、事前の準備をしていた。このような活動が今回機能した。（資料－ 4）
5. ネットワーク化による効果が出るのか。拠点そのものの機能と、どこどこをどう結ぶか、ネットワーク論になると面白いと思う。ネットワークについては議論が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地外の各方面から被災地域へのアクセス、あるいは被災地域内でのアクセスの代替性を確保するため、広域防災拠点は高速道路等の整備状況及び計画を踏まえつつ、インターチェンジ、港湾、空港等の交通の結節点付近に配置する方向で検討する。（次回以降の検討会で報告予定）
6. 大規模の計画ができるチャンスはそんなにない。20 年後だとすると、今の子供たちがしっかり学ぶ必要がある。教育啓発機能をしっかり整備してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・広域防災拠点に持たせる教育啓発機能について検討する。（次回以降の検討会で報告予定）
7. 検死場所、死体安置場所が問題となる。このための場所が分散すると作業が遅れる。この辺も含めて検討いただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の中部地方各県の地域防災計画、名古屋圏・近畿圏での広域防災の計画では、検死・死体安置の機能は広域防災拠点には持たせていない。 ・大変重要なことと認識しているが、まずは、市町村と県が調整する事項であると認識している。